

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)



落語歳時記シリーズ

霜月(11月)の落語 「初音の鼓」

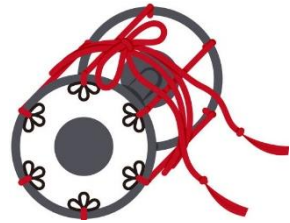
骨董趣味の殿様に、毎回胡散臭いものを売りつけてゆく道具や吉兵衛。今日も「初音の鼓」という怪しい鼓を、百両という大金で殿様に売りつけようとする。

『初音の鼓』といえば、源義経が静御前に与えたとされる代物で、源九郎狐の親の雄狐雌狐の皮が張られており、本物であれば何百金にもなる由緒正しい品であるのだが、当然本物であるはずがない。そこで吉兵衛はこの鼓が本物である証拠として「鼓を打つと、傍らにいる者に狐の霊が乗り移って『コンッ』と鳴く」と殿様に吹き込み、試しに鼓を打つ殿様の前で狐の鳴き真似をして、狐が乗り移った芝居をする。さらに吉兵衛は、殿様の重臣である三太夫を買収し、三太夫にも狐の鳴き真似をさせることによって、まんまと殿様を騙すことに成功する。

本物だと信用した殿様は百両で買うと約束するが、その前に「自分ではなく吉兵衛が鼓を打ったら、自分にも狐が乗り移るのかどうか試してみたい」と言い出し、恐る恐る吉兵衛が鼓を打つと、なんと殿様が『コンッ』と鳴いた。吉兵衛が贋物だと思っていた鼓は、実は本物だったのである。

その後、何度打っても殿様がコンコンと鳴くため、吉兵衛は本物の鼓であることに感動する。

お勘定をしてもらうと、殿様からいただいた包みには一両しか入っていない。吉兵衛がお代は百両だと言うと、殿様は「それでよいのじゃ。余と三太夫の鳴き質が差し引いてある」



■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ
「プロに学ぶ小噺の話し方」落語の時間 “阿武松 (おうのまつ)”
そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も 謎かけ で、お題は「紅葉」「焼き芋」

次回は2025年 12月1日(月)

次回のなぞかけのお題は「冬至」「熊」